○阿寒所見（本田正次）Masaji HONDA: Some botaincal notes on the area of Akan National Park, Hokkaido.

昨年の七月，札幌での日本植物園協會總會を機會に阿寒國立公園を訪れた。天然記念物「阿寒湖のマリモ」を見るためと，硫黄採掘の件で問題化した雌阿寒岳の實際を調査するためとであつた。マリモについては濁水の注流，水力發電，盜採など今なお數々の御難が續いているようであるが，一方地元でも眞劍になつて保護の方法を講じているようでもあるから，先はまアまアというところであろう。雌阿寒岳の頂上でメアカンフスマ，メアカンキンバイなどの生育の實際を見たが，これらの美しい搖籃の地も數年を出でずしてあたらつるはしの先にかけられてしまうことを思えば全く惜みても餘りがある。東大の腊葉室に未だ雌阿寒のメアカンキンバイの標本がなかつたことを思出して徒手で採れるだけの標本を採つた。なお中腹の一箇所でセンダイハギの花盛りに出會つたことは今まで海岸だけでこの植物にお目にかかつていた私に取つてはこんな山中では非常に珍らしいことであつた。雌阿寒を下りた翌日，旅館の近くでキャンプ場になつているボッケまで散歩に行つた。例の泥土がブクブクやつているいわゆる地獄の小規模のものである。地熱と太陽熱とで非常にあつい。この邊一帶にテンツキに似て極めて矮小なものがたくさん生えているが，これは Hultén の Fl. Kamtch. **1** の中に *Fimbristylis annua* の變種として書かれた var. *ochotensis* によく一致するものである。大井博士はその名著 Cyperaceae Japonicae **2** の中にこれをテンツキと同一に扱つて居られるが，生態ならびに形態の兩方面から推して私はやはり Hulten がやつたように少くともテンツキの變種として考えたい。

Fimbristylis dichotoma Vahl var. **ochotensis** (Meinsh.) Honda, comb. nov. Syn. *Scirpus ochotensis* Meinsh. in Acta Horti Petrop. **18**(—3): 248. (1901)——*Fimbristylis ochotensis* Komarov, Fl. Kamtch, **1**: 212 (1927); et Fl. USSR. **3**: 94 (1931)——*Fimbristylis annua* var. *ochotensis* Hultén, Fl. Kamtch. **1**: 170, pl. 5, fig. f (1927); Miyabe et Kudo in Journ. Facult. Agric. Hokk. Imp. Univ. Sapp. **26**: 211 (1930).

Nom. Jap. Akan-tentsuki (nov.)——Hokkaido: Akan (M. Honda, anno 1951)——Distrib. Kamtschatka.

和名は宮部，工藤兩氏の著書にヒメテンツキとして出ているが，この名は *Fimbristylis autumnalis* Roemer et Schultes に普通與えられているので，阿寒のものには上記の通り**アカンテンツキ**の新名を下した。因に大井氏の論文にテンツキの產地としてAkan (U. Faurie n. 10669) が擧つているが多分アカンテンツキと見てよかろう。Faurie の採集した場所も恐らく私と同樣の湖畔のボッケであろうと想像される。但し標本を見ていないので斷言は出來ない。なお，湖畔近くの森林中でハシドイの花盛りに出會つたことは非常に印象的であつた。